

2 1. 第七中学校 P T A への「魅力ある学校づくり構想」の説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成 28 年（2016 年）5 月 30 日（月）19 時 45 分～

○場 所：第七中学校 多目的室

質問・意見等	豊中市からの回答
<b>構想案として、なぜ 2 案出したのか。1 案に絞れない理由はあるのか。</b>	どちらの案もメリット、デメリットがあり、絞り切れなかったこと、また議論を深める中で新たな「第 3 案」が生まれる可能性もあることから、2 案ご提示しました。
<b>今後、こども園等でも説明会を行うとのことだが、保育所に預けていない、幼稚園にも通わせていない保護者はこの話を聞く機会がない。例えば、3 歳半検診の時に説明したり、案内文書を配布するなど検討してほしい。</b>	担当部局ではないので、お答えできないが、ご意見として持ち帰らせていただきます。
<b>例えば「生活・学習課題」の解消は教育委員会だけではどうにもできない。役所の横のつながり、連携が必要。せんないこども園にしても、こども未来部に聞くと、廃園になるなど何も決まっていない、との返答があった。一方で、教育委員会はせんないこども園の敷地も含めた想定例を提示している。横の連携が全く取れていない。</b>	市では、教育委員会及び関係部局で庁内検討会議を開催しています。せんないこども園の話は、今現在、適正配置にかかる基本方針を検討中であり、せんないこども園を含め、どの園が廃園になるなどの話は全く決まっていません。今回の資料提示にあたり、こども未来部と文言等の調整はしています。他にも、通学の安全確保や地域コミュニティの今後について、関係部局と調整、検討しています。
<b>小学生、中学生の子どもをもつ保護者である。できれば、親の意識も合わせて改革してほしい。この学校についても、悪評が口コミで広がっている。今回、学校が新しくなるときに、例えば「学力が上がる」など、良い面をアピールしてほしい。</b>	ご指摘のとおり、小中一貫教育で期待される成果などアピールする必要があると考えています。ホームページなどわかりやすく整理するなどして周知に努めたいと考えています。これまでにさまざまなご意見やご質問をいただいておりますが、検討の進捗に応じて改めて説明会を開催し、よりわかりやすく示したいと考えています。新しい学校はどのような魅力があるのか、なぜ小中一貫教育を行うのか、しっかりと説明したいと考えています。
<b>小中一貫教育は他自治体でも事例がある。そうした事例の成果を教えてください。</b>	全国的に 211 自治体、1,130 件の事例があり、文科省の調査によると、学習指導面、生活指導面の成果があがっているとの報告があります。この調査結果などを周知していきたいと考えています。
<b>近くの池田市や箕面市でも小中一貫教育を行っている。全国でなくても、近隣自治体の様子を聞かせてもらえばよい。</b>	全国的にどのような成果が認められているか、知っていただくことと合わせて、庄内地域と似ている地域の小中一貫校、例えば京都の東山開晴館や凌風学園などの様子もお伝えしたいと考えています。
<b>これまでにいろいろな場所で説明会を行っているが、質問と回答が示されていない。島田小学校でも結構重要な話が出ていた。次回の説明会では、どのような質問、意見が出ていて、どのような回答か、資料をつけてほしい。</b>	ご指摘のとおり、数多くのご意見、ご質問をいただき、その場で回答したり、持ち帰って検討させていただいたりしています。作業が遅れていますが、ある程度整理して、まずはいただいたご意見、ご質問及び回答をホームページにわかりやすく掲載したいと考えています。
<b>生活・学習課題を抱えた子どもが多いとのことだ</b>	生活・学習課題に関して、学校再編により一定規模を確保す

<p>が、現在、先生方はきめ細かく対応してくれている。いくら規模を大きくしても、解決には結びつかないと思うが。</p>	<p>れば、学級数が増え、結果として教職員数も増えるという点に関しては、多少の関連性はありますが、それだけではなく、放課後、休日の居場所づくりであったり、さまざまな職種（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等）や、地域ぐるみ（保護者、地域団体、民生・児童委員、コミュニティソーシャルワーカー等）の教育であったり、さまざまな事業、施策で対応することを検討しています。これまでも、中学校区ごとに小中連携の取り組みを進めているところですが、物理的に離れているよりも一緒にいる方がより連携しやすくなります。小・中の教職員が連携、協力して子どもたちを育むことができるのが小中一貫教育の最大のメリットと考えています。</p>
<p>これまでの説明会は保護者、地域住民向けに行っているが、子どもたちの意見こそ聞くべきではないか。</p>	<p>庄内地域で活躍しておられる団体から小・中学生を対象に、「どのような学校に通いたいか」「どのような庄内地域になればいいか」といった意見を聞く「こども会議」を開催したいという相談を受けています。我々もその企画とリンクするなどして、ぜひ子どもたちの前向きな意見を聞きたいと考えています。</p>
<p>今回提示した2案はほぼ決定ではないのか。いま提示している2案は既存の小学校区を基本単位として考えているとのことだが、いっそのこと、既存校区に捉われず、一から線引きを考え直せばどうか。</p>	<p>何十通りものシミュレーションを検討し、練りに練って、この2案に絞って提案したという自負があります。自信をもってこの構想案をご提示しているので、これ以上の案はなかなかないと考えています。しかし、今現在、この案は決まったものではなく、変更の可能性もあります。</p>
<p>通学経路について、市は勝手に検討して、ある程度決めてから提示しようとしているのか。それとも、保護者や地域住民の意見を聞いて検討しようとしているのか。</p>	<p>決して勝手に決めようとは考えていません。通学経路について、いくら我々が図面上で精緻に検討しても、あるいは実地調査しても、地元で暮らしている方にはかないません。我々ができることは、ある程度検討して、このルートで通わせればどうか、という「たたき台」を用意して、地域の皆さんに教えていただくことであり、そういう関係性を築きたいと考えています。</p>
<p>母親同士の立ち話だが、学校の中よりもむしろ学校の外、放課後の過ごし方の方が話題になっている。これまで、校区外に遊びに行ったらダメと言ってきたのに、校区が広くなり、他の小学校区の子どもたちと接触する機会が増えるなど、危険が増すことになる。また、登校時は集団登校すればよいかもしれないが、下校時はバラバラで帰ってくる。その際の安全確保はどうすればよいか、そういったところが気になっている。</p>	<p>島田小学校の説明会でもそのようなご質問をいただきました。校区が広くなることは確かで、道路整備などハード面の対応と、子ども安全見守り隊のようなソフト面の対応をミックスして考える必要があります。例えば、安全見守りをボランティアではなく、対価を払って実施することも検討する必要があります。また、今年度から2ヶ年で通学路に防犯カメラを設置する事業もあり、さまざまな事業、施策により安全確保に努める必要があると認識しています。</p>